

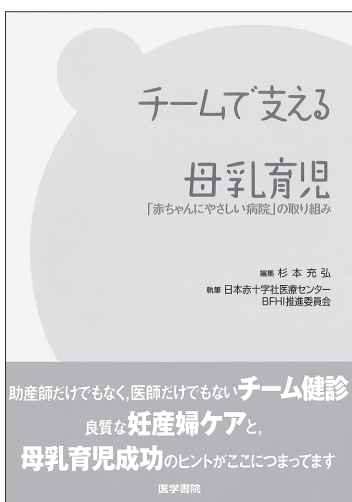
『チームで支える母乳育児 「赤ちゃんにやさしい病院」の取り組み』

評者・小松 佐紀 総合母子保健センター愛育病院 副看護部長

「**母**乳育児の利点とその意義」は誰もが知っている。妊娠中の母親も母乳で育てたいと思い、周産期にかかわる助産師・看護師・新生児科医師・産科医師も「できるものならば母乳育児をサポートしたい」と考え、何らかの支援を行なっている。しかし、現実の生後1か月の母乳栄養率は50%以下である。「何が足りないのか」自問自答し、母親へのサポート方法を模索し「組織の長や院内スタッフの理解を得、意思疎通を図るにはどうしたらよいか」など、孤軍奮闘している現実に限界を感じている医療者は多い。母乳育児を進めるにあたり、病院・地域・行政を巻き込んだ全国規模のチームとしての取り組みが必要であり、渴望されている。

本書は「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」を目指す病院に役立つ参考資料として、2000年8月東京で初のBFHに認定された日本赤十字社医療センターを中心に企画され、医師、助産師、看護師を主体とし、薬剤師、栄養士らメディカルスタッフの協力を得て、BFH認定施設における実践活動が紹介されている。第1章と第8章ではUNICEFとWHOの母乳育児推進の歴史的背景と母乳育児の視点や、「母乳を与えることのできない親子への母乳育児支援を含めたすべての親子を対象とする」BFHの理念を紹介している。また、「赤ちゃんにやさしい病院運動(BFHI)」の考え方について世界

随所にみられるBFHIの 手を抜かない母乳育児支援



杉本 充弘 編集 日本赤十字社医療
センター BFHI 推進委員会 執筆
定価 2940 円(本体 2800 円+税 5%)
A 5 判/医学書院/2011 年

と日本の現状、母乳代用品のマーケティングに関する国際標準や、BFH 認定までの手順等をわかりやすく解説している。第2~5章は同センターでの「母乳育児成功のための10ヵ条」の取り組みと、この10年間の変化について解説。外来での医師と助産師によるチーム健診の紹介、分娩室での母子に優しい出産環境について、産褥期ではスタッフ管理や授乳困難事例対応のコツ・新生児の観察と血糖値管理、母乳外来やNICU/GCUでの親子の最初のかかわりを支えるケアの実際など、ケアの実施と丁寧な検証を行なっている事例がたくさん記載されている。第6章では、院内スタッフの意思疎通を図る方法が紹介さ

れている。産科・新生児科医師両方の立場から、積極的に母乳育児を推進するに至った心の変容が述べられており、他職種へのアプローチ方法の参考にぜひしていただきたい。第7章では、「東京母乳の会」立ち上げと、施設間サポートの実態と課題を紹介している。

全体を通してBFHとしての誇りを持ち、きめ細やかで丁寧な、手を抜かない母乳育児支援が随所にみられる。周産期医療関係者は「母親の意思を尊重する」「母乳を強要したくない」という言葉で、支援する時期を逸してはいないか。強く警鐘を鳴らされた思いである。たった今からの母乳育児支援を後押ししてくれる、強いサポーターとなる1冊である。